
《資 料》

しちょうめ
〈四丁目〉(高井戸囃子版)を教材とする音楽授業のために
—— 教材研究および小・中学校用学習指導案例 ——

阪 井 恵

本稿は、東京都杉並区の無形民俗文化材登録「高井戸囃子^{たかいどはやし}」の伝承曲の中から〈四丁目^{しちょうめ}〉を取り上げ、小・中学校の音楽授業の教材とするために必要な情報・事項をまとめている。高井戸囃子を事例として、祭囃子一般に通じる知識事項や、教材として扱うための注意事項、〈四丁目〉の音楽的構造について解説する。付録として、〈四丁目〉を教材とする小学校第3学年と中学校第1学年の題材指導案例（2～3時間扱い）を提示している。併せて、授業内で児童・生徒が記入し、創意工夫の過程を跡づけるためのワークシート例も示した。付録部分については、酒井美恵子氏（国立音楽大学）の助言／協力を得ている。

キーワード

高井戸囃子 江戸祭囃子 〈四丁目^{しちょうめ}〉 教材化 小・中学校学習指導案

I 本資料の概要

I-1. 本稿の目的と内容

本稿執筆の目的は、小中学校現場の音楽の先生方に、授業に概ねそのまま使うことできる資料を提供することである。内容は、東京都杉並区の無形民俗文化財に登録されている「高井戸囃子」の一連の曲の中から〈四丁目^{しちょうめ}〉について、

- (1) その音楽的構造を記述・解説する。
- (2) 上記(1)に基づき、〈四丁目〉を小学校の音楽授業の題材として扱う具体的な方法の例を、学習指導案（略案）の形で提示する。

以上2点である。

本稿では、上記目的のために必要な範囲で、祭囃子一般に関することや、高井戸囃子を含む「江戸祭囃子」の特徴などに触れた。しかし、祭囃子の研究資料としてではなく、あくまで小・中学校の現場の音楽の先生がたが、実際に授業で使用するための資料に供することを念頭において執筆している。

I-2. 本稿執筆の経緯と意図

明星大学教育学部教育学科における科目「初等音楽科教育法」(小学校教員免許取得のために必修)の筆者担当クラスでは、毎年篠笛の実技を取り入れている。2011年度受講生の中に、「高井戸囃子保存会」所属で篠笛の名手である嶋田清孝氏の関係者がいた。この好縁をとらえ、高井戸囃子の稽古場を訪ねて〈四丁目〉の手ほどきを受けた次第である。

一方、明星大学教育学部教育学科の音楽コースカリキュラムは、日本の伝統的な音楽の学習が他に比べて手薄であり、特に高井戸囃子のような、インフォーマルに伝承される民俗音楽¹について学習する機会が取れていなかった。そのため、音楽コース生対象のゼミに嶋田清孝氏をゲスト講師として招聘し、特に教えていただく機会を設けるようになった。筆者の技量はあまり向上しないものの、2年度にわたるご指導を受けて、〈四丁目〉の音楽的構造についてはほぼ理解できたと思う。特に、祭礼現場における実際の演奏が、即興性にあふれたダイナミックなものであることを垣間見た点は、非常に大きな収穫であった。楽譜に拠らない音楽の中での即興性、演奏者どうしの駆け引きや遊び心、といったものを、将来音楽の教員になる人たちや既に現場で教えている人たちが経験し、身につけ、音楽のユニークな魅力として是非子どもたちに伝えてほしい。

高井戸囃子の曲の中でも〈四丁目〉は、基本構造が単純であり、篠笛の旋律も相対的には易しい。小中学校の授業で、〈四丁目〉を教材として日本の民俗音楽の魅力に触れることは充分可能である。但し先生方には、〔指導目標－活動の実際－評価の観点と方法〕を一望して取り組むことの出来る、具体的な指導プランの例示が必要だろう。本稿では付録として、指導プランやワークシートを提示した²。

筆者が教員養成課程で担当している初等・中等それぞれの「音楽科教育法」においても、本資料は教材として用いることができる。今後も嶋田氏はじめ高井戸囃子伝承者の方々のご教示を受け、また広く祭囃子や里神楽についての認識を深め、必要に応じて改稿したい。

II 「江戸祭囃子」と「高井戸囃子」

II-1. 祭囃子についての基本的事項——音楽科授業で扱うために

(1) 用語

「祭囃子」とは、神社などの祭礼にあたって地域を練り回る山車(だし)の上で、あるいは山車について歩きながら演奏する音楽である。通説では、京都八坂神社の祭礼音楽である祇園囃子が全国に広まったものとされている。見せ物としての華やかな山車、祭りの気分を煽る音楽という発想のルーツは祇園にあるのかもしれないが、実態を見れば、地方ごとに特色ゆたかな祭囃子が伝承されている。現在の東京の祭囃子は享保年間(1716～1735)に江戸で創始されたという具体的な説³があり、他と一線を画した特徴をもつ「江戸祭囃子(江戸の祭囃子、江戸囃子とも言う)」として知られる。

祭囃子を音楽の授業で扱う際に留意すべきは、地方色が色濃く出る結果、ともすれば同じ物(たとえば楽器や奏法や曲)に対して複数の異なる名称が存在していることである。インフォーマルに伝承されているため用語の整理もなされず、同一地域内で複数の名称が存在することさえある。逆に言えば、多くの物や概念があるように見えるが、それらは目を離して見れば大同小異であることも多い。授業の題材として扱うためには、用語・概念

を適切に整理し、スタンダードと考えるとよい事象を把握し、音楽教育的に意義のある指導内容を見きわめて取り組むことが大切である。

前出の「山車(だし)」にも、屋台、ダンジリ、曳山(ひきやま)、山鉦、など地方によって多様な名称がつけられているが、神様の宿場所としての神輿(みこし)について回る形で、氏子たちが担いだり、車をつけて引いたりするものを言う。「囃子」は山車の上や周りで演奏されるのが本来だが、「はやす／はやし立てる」から来た言葉⁴であり、実際には、祭礼や慶事祝賀の機会に行われる獅子舞の囃子や、神社の神楽殿で行われる里神楽⁵につく囃子も、「祭囃子」として括られている。

「江戸祭囃子」は、大太鼓(鉦打太鼓)1、締太鼓2、篠笛(七孔のもの)1、鉦1の五人囃子形態に共通の特徴がある。これに拍子木や大拍子⁶が加わることもあるが、担い手の意識においても、あくまで五人囃子が基本である。これらの楽器にも、様々の呼び名がある。代表的なものは知っておくべきだろう。

表1：江戸祭囃子に使用される楽器の多様な名称

楽器名	江戸祭囃子に見られる代表的な通称
びょうちだいこ 鉦打太鼓	ながどうだいこ 長胴太鼓 大太鼓 おおどう 大胴 オオド
おけどうだいこ ⁷ 桶胴太鼓	おけどう 桶胴 オケド 大太鼓 よこどう 横胴 ヨコド
しめだいこ 締太鼓(2つで1対)	しん ながれ シン・ナガレ たて わき 真・流 タテ・ワキ
しのぶえ 篠笛	笛 トンビ
かね 鉦	あたりがね すりがね ⁸ 当り鉦(擦り鉦) チャンチキ ヨスケ よすけ 与助 シャンギリ チャンギリ

江戸祭囃子は、明治10年頃から幾つかの性格の異なる曲を組んで、一連の演奏をするようになっていく⁹。曲名にも地域ごとに細かい差違があるが、各曲の性格と組み方(曲順)は概ね同じである。平成初期に東京都各地の祭囃子保存会によって伝承されている曲名を見ると、表2のようなものが挙げられている¹⁰。曲名についても、多様な発音や表記を整理

表2：江戸祭囃子の代表曲の多様な名称

よく聞く曲名	別名／別表記	*関連事項
うちこみ 打込み	ぶっこみ、叩き込み	
はや 破矢	はや 早矢 早	*〈屋台〉と同じ曲。山の手でよく使われる名称。
やたい 屋台		*〈破矢〉と同じ曲。下町でよく使われる名称。 ¹²
かまくら 鎌倉		*鎌倉幕府への敬意の表れか、どこでも一貫して同じ表記である。
しょうでん 昇殿	しょうでん しょうでん じしょうでん ほんしょうでん 聖殿 聖天 地昇殿 本昇殿	
くにがため 国堅	くにがため くにがため 国固め 国が為	
しちょうめ 仕丁目	しちょうめ しちょうめ しちょうめ 四丁目 師調目 師調舞	
にんば 仁羽	にんば にんば 印羽 仁馬	

して示した。伝承曲数は保存会により差があり、その後も変動していると考えられる。変動の主たる理由は、最低でも習得に3年はかかると言われる篠笛の吹き手がいるかどうかだという¹¹。

最近では遍く知られるようになったことだが、日本の伝統音楽の学習法の特徴の1つに「唱歌」や「口三味線」というものがある¹³。楽器の奏法や音を擬音語に移したものを指し、学習者は楽器の奏法を習得するより先にそれを覚えて学ぶ。江戸祭囃子では、これに對しても複数の名称がある。表3に示した。

表3：「唱歌」・「口三味線」に相当する概念の多様な名称

楽器は不特定	しょうが 唱歌 口唱歌 言い事 結事 じこと しょうか ¹⁴
特に太鼓の場合	しょうが 唱歌 太鼓叩き言葉、太鼓ことば
特に笛の場合	しょうが 唱歌 笛ことば
特に三味線の場合	くちじゃみせん 口三味線

Ⅱ-2. 高井戸囃子の概要

Ⅱ-2-(1). 高井戸囃子に関する基本情報

(1) 高井戸の地理的位置と特色

高井戸は、甲州街道（国道20号線）と東京の環状八号線の交差点付近の地名で、東京都杉並区と世田谷区の区境に位置する。江戸時代の五街道の起点、日本橋から出発する甲州街道の第1の宿場として1600年代に賑わった土地柄である。1698年に、高井戸は遠すぎるとして、内藤新宿（東京都新宿区内藤町）が第1の宿場として設けられ、それ以降は宿場としては下火となった。

高井戸囃子伝承の中心、第六天神社は鎌倉時代からあったそうだが、1856年に、現在地（東京都杉並区高井戸西1-7）に社殿が建立されている。昭和の戦争の時、東京では多くの神社が焼失したが、第六天神社は難を逃れた。

(2) 江戸祭囃子全体から見た高井戸囃子

平成5年に出版された『江戸の祭囃子：江戸の祭囃子現状調査報告書』（東京都教育委員会）¹⁵には、391の祭囃子保存会に関する情報があり、各保存会が祭囃子としての流派を自己申告している¹⁶。申告された流派は非常に多様に見えるが、この調査報告書は、歴史的経緯や伝承者の観点から、江戸の祭囃子は2つの系統に分けられると総括している¹⁷。1つは「神田囃子・葛西囃子系統」、もう1つは「目黒・船橋・大井・相模流の系統」である。高井戸囃子は後者のほうで、船橋流早間と自己申告している。高井戸囃子保存会で話しを聞いたところでは、〈屋台〉という曲の場合、「神田・葛西囃子系統」では「テレスケ天○テレスクス○」とひとくさりを（→後述）12シラブルで太鼓を打つが、高井戸囃子など「相模流系」では「テレスケ天○テレスケテレスクス○」とひとくさりを16で刻む。明らかな違いがあり、少し注意して聴けば分かるだろうとのことだった。

地元の保存会の協力を得て祭囃子を授業に取り入れる場合や、他の先生の実践に学んで自分もやってみようとする場合には、このような流派の違いがあることを念頭に、当該の祭囃子はどの系統になるのかを知っておくことが望ましい。

II-2-(2). 平成25年現在「高井戸囃子保存会」の伝承曲

現在（平成25年）の高井戸囃子保存会が伝承している曲は、保存会では以下の4曲としている。以下は、嶋田清孝氏による各曲の性格づけである。

表4：高井戸囃子保存会による伝承曲の性格づけ

やたい 屋台	囃子のメンバー全員の息が合っていることを聴かせる曲。
鎌倉	笛を聴かせる曲。笛が複雑で難しい。太鼓はあまり入れないで置く。
しちようめ 四丁目	御輿を担いで上下させながら歩くリズム（わっしょい、わっしょい）に合わせて演奏する曲。太鼓は、笛を聴きながら即興的な演奏（→後述する「玉入れ」）を楽しむ。
にんば 仁羽	「モドキ」や「バカ面」と呼ばれる、おかめ・ひょっとこの踊りを囃す曲。

他の保存会の場合、〈ぶっこみ〉や〈国固め〉を1つの曲として扱っているところもあるが、高井戸囃子保存会では、〈ぶっこみ〉は〈屋台〉の前奏部分、〈国固め〉は〈四丁目〉の入りの部分という認識で、1曲としては扱っていない。また、〈昇殿〉は現在伝承していない。

これらの曲の演奏以外に、祭囃子の付属芸能として、獅子舞、それに合わせてモドキ（おかめ、ひょっとこの面を付けた踊り手がユーモラスな所作で踊る芸能）も行っている。次節では、上記の中から〈四丁目〉を取り上げて、その構造と学習法を述べる。

Ⅲ.〈四丁目〉の基本構造とその学習

Ⅲ-1. 太鼓叩き言葉の暗唱

〈四丁目〉を習うに当たっては、まず基本の「太鼓叩き言葉」を覚える。現在伝承されている太鼓叩き言葉は楽譜1の通りである。中央に引かれた縦線の右側は右手のバチ、左側は左手のバチでたたく。タイミング（リズム）は、縦位置によって示されている。楽譜2が、実際の太鼓言葉の発音をひらがなにして、1マス1シラブル（これは後出の楽譜3で八分音符1つ相当）の縦書き譜にしたものである。

楽譜1

○

テ

コ

ク

ク

テ

ク

○

天

ス

テ

ツ

ツ

テ

ツ

ツ

高井戸囃子より

しちようめ

「四丁目」の太鼓叩き言葉

楽譜2

左バチ	右バチ	言葉発音	太鼓叩き	拍の位置	五線譜の
			ウ	7	
			ツ		
	打	てん	○	8	
	打	す		1	
打		て			
	打	て		2	
打		こ			
	打	つ		3	
打		く			
	打	つ		4	
打		く			
	打	て		5	
打		て			
	打	つ		6	
打		く			
	打	つ		7	
		ツ			

太鼓は笛の演奏中、この間を反復する。

笛は、太鼓の「天（てん）」を聴いて、このタイミングで1拍目を開始する。

太鼓叩き言葉―太鼓の手―笛の旋律の入りのタイミング 三者の関係

太鼓叩き言葉をすっかり暗記した後は、口には出さないものの、

「(ウッ) テン／ステテコツクツク／テテツクツ (ッ) テン／ステテコツクツク／テテツクツ (ッ) テン／・・・(以下、笛の旋律に合わせて反復)」

のように心の中で言いながら叩く。最初に書いた「(ウッ)」の部分は「テン」に入るタイ

表 5：拍子と太鼓叩き言葉の関係

拍子	7		8		1		2		3		4		5		6		7		8	
太鼓叩き言葉	ウ	ツ	テン	○	ス	テ	テ	コ	ツ	ク	ツ	ク	テ	テ	ツ	ク	ツ	ツ	テン	○
				拍子	1		2		3		4		5		6		7		8	
				太鼓叩き言葉	ス	テ	テ	コ	ツ	ク	ツ	ク	テ	テ	ツ	ク	ツ	ツ	テン	○

ミングをとるための「コミ」¹⁸あるいは「ため」のような部分で、息を飲み込み予備動作に入る感じだろう。太字で示した「テ（ン）」および「テ」は叩くところ、細字のところは「刻む」あるいは「音を止める」ように打つ。太鼓の皮面に触れる、くらいに考えてよいだろう。一線譜で示すと楽譜3のようになる。

楽譜 3：大きな符頭は打つ。小さな符頭は刻む。

太鼓叩き言葉を暗記し、左右のバチの順序を覚えるまでは比較的やすいが、「天」や「テ」は明確に打ち、あとの音は「刻む」ように打つのは、実際には相当難しい。反復するうちに、初心者はずべて同じ叩きかたになってしまう。初めはそれでもよし、とすべきだろう。

太鼓の「天」は、8拍の流れの8拍目に入る。日本の音楽（たとえば能楽や長唄）の囃子事はすべて、このように8拍を単位とし、これを「ひとくさり（一鎖）」と言う。上に示した8拍は、「4拍×2、つまり4拍子で2小節分」と捉えることもできるのだが、あえて西洋音楽とは別のものと考え、「8拍＝ひとくさり」として扱うのがよい。長唄や能楽を学習するときにもそのまま通用する、日本の音楽の基本リズムなのである。

笛は最初の「天」を聴き、1拍遅れて、いわば「次のひとくさりの1拍目」から入る。笛については次節で述べる。

Ⅲ-2. 笛の基本旋律

太鼓による基本リズム（太鼓叩き言葉のリズム）と合わせて、〈四丁目〉という曲の輪郭を形成するのが、篠笛の旋律である。祭囃子の曲の旋律は、年長者が年少者に模倣させる手法により伝承されてきた。その過程では、旋律型を派手にしてオリジナリティを出す人がいたり、逆に技術的な理由から簡易化する人もいたりして、旋律は変化を続けているようだ。楽譜4は、嶋田清孝氏による2012年6月26日の演奏に基づく。嶋田氏自身も旋律を固定的にとらえておられず、興に乗ってジャズのように多様な演奏をされる。今回のものは、筆者及びゼミ生が篠笛を学習するために、最も基本的な旋律形で演奏していただいた。

楽譜4は、この模範演奏を音高とリズムの側面だけから見て筆者が五線譜化を試みたものである。笛の音高は、五線譜上では同一であっても指使い（運指）に複数の可能性があ

る。また異なる運指によって異なる音色が生まれる。微妙で装飾的とも言える細かい音の動きは五線譜では伝達しがたい。したがって、このような五線譜化は、伝承の観点からは邪道であることを自覚しなければならない。一方、本稿で試みる「教材化」などの観点からは、有効な使い方もある。

Ⅲ-3. 笛の唱歌

篠笛の学習は、高井戸囃子の場合、現在も見よう見まねで習う方法による。唱歌を覚えてから笛を吹き始めるという、厳密な順序性もない。ただし、幼いころから年長者の演奏を聴き、太鼓の合わせ方を教えてもらったりしているうち、篠笛の音が出せるようになる前に旋律を記憶してしまうのが、自然な流れであるようだ。

楽譜 4

高井戸囃子より

四丁目（しちょうめ）

笛の旋律と唱歌

採譜 阪井 恵

チリ シャイ リ トー シャイ リ トー シャイ チリ シャイ

チリ シャイ リ トー — — シャイ リ ツ レ リ シャイ

ツ レ リ シャイ トー シャイ リー シャイ トー シャイ リー シャイ

トウ — ル ル トー チリ シャー イ シャ — イ リ

トー チリ シャイ リ トウレ ラー ピー ロー シャイ チ リ トウレ ラ

ビ — ロ ツ レ リ シャイ ツ レ リ シャイ

ツ レ リ シャイ ツ レ リー テ レ ツ テン テン

四丁目（しちょうめ）

22
ツ ル ル ル テ レ ツ テン テン ツー ル ル

25
トー チリ シャー イ シャー イ リ シャイ リ シャイ リ

28
シャイ リ シャイ シャイ リ シャイ シャイ リ シャイ

31
シャイ リ シャイ リ シャイ リ ル ピー ロピー ロピー ロピー

34
ロピー ロピー ロピー ロピー ツ レ リー シャイ

36
ツ レ リー シャイ ツ レ リー シャイ ツ レ リー シャイ ピー!

〈四丁目〉の笛の唱歌としては、嶋田氏は「チリシャイリ、トーシャイリ、トーシャイチリシャイチリシャイリ」と、冒頭部分を口にされたが、ご自身も全曲を唱歌で習ったわけではない。とにかく先輩の演奏を見聞きし、笛の運指をそっくり模倣して習得されたとのことである。また、「ある旋律型に対応する唱歌のシラブルは、基本的にこのようである」という定まった対応関係も、特にないという認識を示されている。

明星大学のゼミでは、〈四丁目〉全曲にわたる唱歌を創作して使うことにした。「使う」というのは、実際に篠笛を吹けない場合は「唱歌を歌う」ことで代替するという意味である。ゼミ生が協力して一節ずつ考え、「チリシャイリ、トーシャイリ」に続く全部分を「唱歌化」した。創作した唱歌は、楽譜4の五線譜に歌詞のように付けたものである。

篠笛は短期間では演奏できるようにならない。授業で扱う場合、さし当りは唱歌を覚えて歌い、太鼓の手と合わせることで、〈四丁目〉の基本的な構造を経験することが可能である。2013年度音楽コースゼミでは、一部のゼミ生（フルートの学習経験をもつ人など）は1ヶ月位の間にかなりよく吹けるようになったが、時間を要する人は唱歌を歌うことによって参加した。学校の音楽授業では、篠笛を計画的・継続的に取り入れても〈四丁目〉程度の曲までは吹けるようにならないと考えたほうがよい。その場合、教師による吹

奏、代表者による吹奏、リコーダーや電子楽器を使用した演奏などと併用しながら、基本的には唱歌を歌うことによって参加する方法が、篠笛学習本来の形に最も沿うと言える。

Ⅲ-4. 即興的な演奏：「玉入れ」

笛の旋律と太鼓の基本リズムが重なると、〈四丁目〉という曲の骨組みが出来上がって、一応それらしいものに聞こえる。実はここからが肝心で、囃子の醍醐味である即興性を發揮して楽しむ演奏が始まるのである。

江戸の祭囃子は前述のように五人囃子の形態だが、この場合、前列に太鼓3人が座し、後列に笛と鉦が立つ形での演奏が一般的である。高井戸囃子の用語で説明すると、太鼓は、正面から見た左側に、「オオド」と呼ばれる鉦打太鼓が位置する。中央と右側には、締太鼓が位置する。締太鼓2つのうち、正面から見て左側（中央）に位置するポジションが「シン（真）」、右側に位置するポジションが「ナガレ（流）」である。シンとナガレが同じ音では面白くないので、通常はナガレのほうを少し低い音に調律する。

「玉」とは、〈四丁目〉などの曲で、笛のテンポに合わせて即興的に打つ太鼓の手のことを言う。「玉入れ」とは「玉」を打つこと、即ち、笛を聴きながら即興的に太鼓を入れることを指し、太鼓の技量の聞かせどころということができる。〈四丁目〉は御輿が担がれている間、何度も繰り返して演奏されるが、その間で「玉入れ」が行われたり止まったりする。

太鼓の基本リズムを担うのは締太鼓のシンだが、シンのリズムに対してナガレとオオドが玉入れを行う。たとえば1回目はシンが基本リズムでナガレが玉入れをする。2回目はシンを基本にオオドが玉入れ、3回目はシンも適当に遊び、「天」を打たずに抜いてみたりする、といったふうである。

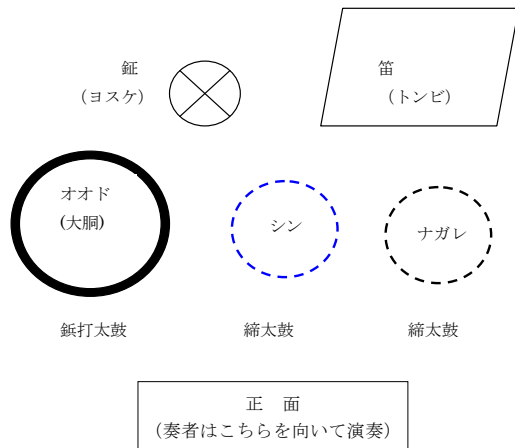


図1 五人囃子の位置取り（基本）

「玉入れ」は、なじみのある言葉で言えば、合いの手を入れること、会話で言えば相槌を打つことだと考えて良いだろう。したがって、基本の「天○ステテコツクツクテテツクツ○」より細かい刻みにはならないようにする。初心者の方の玉入れは、まず笛の旋律を頭に入れ、笛のフレーズ末尾のリズムと重ねて打つのが良いとのことである。

高井戸囃子の〈四丁目〉では、次の曲〈屋台〉に移るとき¹⁹、「テレスケ天○テレスクス○」という一種の「トメの手」もある。これはたった1回の合図なので、ボンヤリして聞き逃すと次に移ることができない。緊張感のあるアンサンブルの中で、奏者どうしが合図を送ったり受けたりしていることは、まさに楽譜に拠らない音楽の醍醐味である。このような工夫する経験は、音楽教育的には大変有意義である。小・中学校の授業では実現が難しいかもしれないが、教員養成課程の授業では是非取り組んで醍醐味を体感し、様々な題材に応用できるようにしたい。

Ⅳ 〈四丁目〉（高井戸囃子伝承版）を教材とする、小・中学校音楽科題材指導案の例示

Ⅳ－１. 小学校用・中学校用 ２つの指導案（付録）の概要

前節に記述した〈四丁目〉（高井戸囃子伝承版）の音楽的側面に関する教材研究に基づき、ここでは〈四丁目〉を教材とした具体的な指導プランを提案する。付録とした学習指導案（略案）の対象学年は、小学校第３学年と、中学校第１学年である。学校ごとに事情は異なるので、対象学年は一概に指定できない。実状に合った学年を対象に、プランを適宜修正しながら活用していただきたい。

（１）小学校第３学年（第４学年にも応用可能）対象の指導プラン

小学校第３学年向けの授業案は、活動のカテゴリーとしてはＡ表現（２）器楽ウ「音色に気を付けて旋律楽器及び打楽器を演奏すること。」を中心に考えた。太鼓叩き言葉を覚えて反復することに始まり、太鼓を叩く動作にまで発展させる。その際、日本に昔からある音楽に特徴的な「８拍でひとくさり」のリズムと、その根底にある４拍ひとまとまりで大きな１拍を成す、うねりのような緩やかな拍の流れをも感じ取らせたい。そのために、「わっしょい、わっしょい」という御輿を担いで進む時の掛け声（大きな拍の流れ）と、太鼓のリズム（８拍でひとくさり）の両方を経験させる。次に担当を分け、両者を合わせることで、大きな拍の流れに乗って、心地よく太鼓のリズムを打つことができるように導くものである。この指導案では、笛は入っていない。

第４学年であれば、Ａ表現（２）器楽エ「互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。」で考え、全体の速度や強弱が変動しても、２つの役割が互いに聴いて「合わせる」ことを学習の中心として展開できるだろう。第４学年の場合、笛の旋律（簡易版）をリコーダーで吹くことは、全員が出来てほしいと思う。しかし楽譜を目で追いながらの演奏は難しい。すっかり覚えて吹くためには、それなりの練習時間を要するだろう。児童が、それぞれ適切な役割を果たすように配慮してほしい。

（２）中学校第１学年対象の指導プラン

中学校第１学年向けの授業案は、活動のカテゴリーとしてはＡ表現（２）器楽ウ「声部の役割や全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて演奏すること。」を中心に考えた。簡易化した篠笛の旋律をソプラノリコーダーで演奏し、太鼓の基本リズムを合わせることが基礎学習部分になる。その上で、〈四丁目〉の醍醐味である「玉入れ」の工夫、笛の旋律に装飾を付けたり細部のリズムを変えたりして祭囃子の笛らしくする工夫、などを行うことにより、グループ独特の〈四丁目〉を演奏できるように導くものである。

生徒の技術（特にリコーダー）に余裕がある場合は、活動のカテゴリーをＡ表現（３）創作イ「表現したいイメージをもち、音素材の特徴を感じ取り、反復、変化、対照などの構成を工夫しながら音楽をつくること。」で考えることができるだろう。その場合は創作の活動カテゴリーにふさわしいように、創意工夫の及ぶ範囲を広げる。すなわち、短い合いの手や、基本旋律の簡単な装飾を工夫するに留めず、構成全体のことまで考えるように導く。たとえば、曲の初めに小手調べ風の即興を入れたり、何回か反復する中で活躍する楽器を交代したり、笛や太鼓のソロ部分を入れたり、終わるための「トメの手」を工夫したりす

ることができるだろう。

以下、付録の題材指導案をご参照いただきたい。

【注】

- 1 ここでの「民俗音楽」は「芸術音楽」と対を成す語として使用した。「民俗音楽」は、地域に伝承されている芸能の音楽的側面、祭囃子、民謡、わらべうた、子守唄などを指す。歴史的に見ると、「芸術音楽」の担い手が貴族や武士など社会的身分の高い人々であったのに対して、「民俗音楽」の担い手は正史には出てこない人々である。きわめて多くの種類があるので一概に言えないが、本稿の文脈では、庶民が公的な制度の外で、世代から世代へ伝承してきた音楽、と捉えてほしい。
- 2 本稿が例示するのは、2～3時間抜きの題材指導案（略案）である。楽器も代替品を適宜用いて活動するように考えている。一方、祭囃子を学校で本格的に扱っている事例や提案もある。森由紀乃の立川市立中学校における実践と研究、猶原和子のお茶の水女子大学附属小学校における実践（以上2例は、参考文献2. 7. 10. として記載）などである。これらは、祭囃子の伝承法まで含めて取り入れており、課外活動や選択授業も活用した望ましい在り方を示している。しかしそこまでは実現困難な現場が大半であることを考え、本稿では次善の策を提示した。
学習指導案およびワークシート案の作成にあたり、酒井美恵子氏（国立音楽大学）の助言・協力をいただいた。深く感謝申し上げます。
- 3 1716（享保元）年、香取明神（現在の葛西神社）の神主が創始して近隣に広めたという説。東京都教育委員会発行（1997）『江戸の祭囃子：江戸の祭囃子現状調査報告書』（→参考文献6. pp.17-18. 三隅治雄執筆部分）に詳しい。
- 4 上記の文献で三隅治雄氏は、「『はやす』は『殖やす』などに通じる語か」（p.17）との見解を示している。
- 5 「里神楽」は、単に「神楽」と呼ばれることもある。庶民の会話の中では「おかぐら」と言われることも多い。神を祭るための楽舞で、鑑賞の機会が少なくなっているが、能と似た形態を持ち、笛や太鼓の囃子に合わせ、面をつけた演者の舞と所作によって進む無言劇である。
- 6 大鼓（おおつづみ）の胴を長くした形状で、バチを使って打つ。里神楽の囃子で用いられることが多い。
- 7 桶のように板を組み合わせ、竹や金属で締めた胴をもつ太鼓。門付けの獅子舞などに一般的に使用される。高井戸囃子では、鉦打ち太鼓を使い桶胴太鼓は使わないが、通常の曲に桶胴太鼓を使用するところもある。
- 8 奏法としては打つだけでなく、鹿角の付いた撞木バチで鉦の内側を擦る。したがって「スリガネ」なのだが、「擦る」は縁起が悪い言葉であるので、「アタリガネ」と言う。スルメを「アタリメ」と言うのと同じ発想に基づく。
- 9 <http://www.ne.jp/asahi/pcgnet/home/hayashi.htm>（平成25年11月17日現在）「祭囃子 東京都民俗無形文化財指定『神田囃子保存会』監修」の一章（四）切囃子についての項目による。
- 10 参考文献5. pp.29-379.
- 11 高井戸囃子保存会の方々から得た情報である。
- 12 〈破矢〉と〈屋台〉の関係についてのこの情報は、参考ウェブサイト12. にある、棚橋誠氏からのものである。参考文献6. （1997）の調査では、高井戸囃子保存会は〈破矢〉という名称で伝承曲を申告しているが、嶋田清孝氏をはじめ現在のメンバーは同曲に対して〈屋台〉の名称を使用している、という事実もある。
- 13 「唱歌」は「口唱歌」と言われることもある。口三味線は、文字通り三味線音楽の場合に使用される。唱歌による学習は、雅楽、能楽では必須であり、楽器にほとんど触れないうちに徹底的に覚えさせられる。この学習によって、独特の間の取り方、呼吸の仕方（特に管楽器の場合）が身に付き、指使いや奏法（出すべき音色）が記憶されていく。
- 14 祭囃子の担い手から時々「しょうか」という発音が聞かれる。おそらく「唱歌（しょうが）」の漢字表記の認識が先行して、笛ことばや太鼓叩きことばを「しょうか」というようになったものと思われる。
- 15 参考文献6.

- 16 同上書 pp.380-389.
- 17 串田紀代美「東京都の江戸祭囃子——現状調査とその報告から——」(同上書 pp.23-28) は、里神楽と祭囃子には相互交流があり、神楽師たちが祭囃子を演奏したり指導したりする役を担っていることを指摘している。その上で、「里神楽の流派は特になが、東京都内に伝わる里神楽はその系統からみて2つに大別される。…(中略)…祭囃子の流派については…里神楽に習って大別すればそれは2つの系統に分けることができよう。…構成曲をみても、前者(葛西・神田囃子系統=阪井補)は「屋台-鎌倉-昇殿-四丁目-屋台」であるが、後者(目黒・船橋・大井・相模流=阪井補)は「破矢-鎌倉-国堅-宮昇殿-破矢」を基本曲としている場合が多く…(後略)」(p.26) としている。本稿の目的からは、上記のような系統の存在を認識しておけばよいと考える。
- 18 「コミ」は「込み」と書く。観世流能楽師の浅見真高師は「込みとはまさに拍を打たんとするとき、内身に気合いを充実させ一瞬の機をうかがうため、満を持することである。」(浅見真高編『能の音楽性と実際』→参考文献1. p.42) と説明している。
- 19 注17に記してあるように、改めて組曲形式で演奏するときは、〈屋台〉→〈鎌倉〉→〈四丁目〉→〈屋台〉の順で聞かせどころを披露する。

補注：高井戸囃子(杉並区登録無形民俗文化財)保存会について

第六天神社(杉並区高井戸西1-7)の氏子。保存会の現在(平成25年)の代表を務めておられる内藤松幸氏は杉並区上高井戸1丁目在住。第六天神社の秋の例祭は9月初旬に行われているほか、毎年11月には杉並区郷土芸能大会(於：セシオン杉並ホール)もあり、高井戸囃子の全貌に接することができる。高井戸囃子保存会では、幼児期から習っている小中学生が立派な担い手に育っている。近隣のお祝い事に招かれる機会も増え、付属芸能の獅子舞、もどき等も併せて練習に励んでいる。毎週火曜日夜に京王線芦花公園駅付近で稽古をしており、お願いすれば参加・見学をさせていただける。

【参考文献／参考ウェブサイト】

1. 浅見真高編(1993)『能の音楽性と実際』音楽之友社。
2. 川口明子・猶原和子(2012)『小学校でチャレンジする！ 伝統音楽の授業プラン』明治図書。特に同書 pp.36-41「江戸囃子でアンサンブルに挑戦」の部分。
3. 串田紀代美(1997)「東京都の祭囃子—江戸里神楽からの影響をめぐって」『芸能の科学25』東京都文化財研究所、pp.101-138。
4. 小林梅次(1966)「東京近郊の祭ばやし」『日本民俗学会報47』、pp.27-37。
5. 杉並区教育委員会(1974)『文化財シリーズ8 杉並の民俗芸能』
6. 東京都教育委員会(1997)『江戸の祭囃子—江戸の祭囃子現状調査報告書—』東京都教育庁生涯学習部文化課
7. 猶原和子(2012)「江戸囃子を身体まると楽しむ：唱歌(しょうが)から出発する伝統音楽の授業(特集 学校現場での日本伝統音楽の指導)」、『音楽文化の創造：65』、音楽文化創造、pp.24-27。
8. 猶原和子(2005)「和楽器を学校教育の中でどのように位置づけるか：江戸囃子を中心においた試み」『学校音楽教育研究：日本学校音楽教育研究会紀要9』日本学校音楽教育実践学会、pp.76-77。
9. 中村規(1992)『江戸東京の民俗芸能2—風流』主婦の友社。
10. 森由紀乃(2007)「江戸祭囃子の教材化にむけての研究—中学校音楽科における祭囃子の指導を通して—」『教材学研究18』、日本教材学会、pp.145-152。
11. <http://www.ne.jp/asahi/pcgnet/home/hayashi.htm>「祭囃子 東京都民俗無形文化財指定『神田囃子保存会』監修」。2013年12月22日現在。
12. <http://homepage3.nifty.com/senbe/yougo.html>「祭囃子のお話し」：河原氏によるサイト。2013年12月22日現在。「祭囃子の言葉」の項目が設けられている。ただしこの項目は、棚橋誠(1994)『横濱里囃子 九 祭囃子の言葉』(平成6年版、35頁)の引用であることが明記されている。棚橋誠の積年の研究成果であるこの小冊子は、本稿執筆の段階では入手・閲覧が叶わず、阪井は現物を見ていない。
13. <http://denshouuta.com/page084.html>「江戸祭囃子と重松流」山口巖氏によるサイト。2013年12月22日現在。

付録（１）小学校第３学年対象の授業案

（１）事前準備

■楽器類

本案に沿って授業を行うためには、少なくとも締太鼓セット（締太鼓、置き台、バチのセット）が１つあることが望ましい。できれば、ボルトで締める頑丈な「附け締太鼓」と呼ばれる種類がよい。児童が本物に触れて音色を聴くことができるからである。バチだけでも、人数分揃えられるとよい。しかし締太鼓がなくても代替品が十分に活用できる。

- ・締太鼓の代替品： ①古タイヤ ②ポリバケツ ③厚めのボール箱 ④机やイスにバスタオルなどを敷いて叩く面とする、など。
- ・バチの代替品： ①内径 1.3 cm 程度の塩化ビニール管を長さ 30 cm 程度にカットしたもの（糸ノコなどで簡単にカットできる。切り口部分は紙ヤスリをかけておくとよい。）
②硬めの空きペットボトル（500 ml）など。

古タイヤでの練習は、１つのタイヤを２～３名で囲むことができて楽しい。

■楽譜

本稿の**楽譜 1**：〈四丁目〉の太鼓叩き言葉を拡大あるいは模造紙に書いて貼れるようにしたもの。

■映像資料

地元の祭囃子の映像があれば最もよい。その他、TV の映像を撮っておく。市販の DVD を活用する、など。

■ワークシートなど

発表に使用する**のぼり坂カード**、**くんだり坂カード**、**平地カード** 各数枚。

本題材についてのワークシート。

(2) 授業案

小学校第3学年 音楽科題材指導案（略案）

1 題材名

祭ばやし〈四丁目〉^{しちようめ}にチャレンジ——拍を感じながら太鼓を打つ楽しさを味わおう

2 題材の目標

〈四丁目〉の太鼓リズムを、拍を感じながら正しく打つ。

学習指導要領の指導事項 表現 A－（2）器楽－ウ

〔共通事項〕拍の流れを基礎にして太鼓のリズムを反復する。

3 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
① 祭りと御輿のイメージをもつ。 ② グループ活動に積極的に参加する。	① 〈四丁目〉の太鼓叩き言葉と「わっしょい」の、合わせ方（入り方、ずれないで反復すること、やめ方）をグループで工夫する。	① 〈四丁目〉の太鼓叩き言葉を正確に反復することができる。 ② 「わっしょい」の反復に、①のリズムを正しく重ねられる。

4 指導と評価の計画 （ 2 時間扱い）

時	◎ねらい ●学習内容と学習活動 ★教師の働きかけ	評価の観点				評価方法
		関	創	技	鑑	
第1時	◎〈四丁目〉の太鼓叩き言葉を唱えながら、机などを叩けるようになる。 拍（太鼓叩き言葉のひとくさを、わっしょい×4回でとらえる）に合わせて、上記ができるようになる。					
	●お祭りの映像から、囃子の演奏風景のイメージを持ち、囃子の役割について考える。 ★音を消した映像を見せる、など。 ●教師「わっしょい」児童「わっしょい」の交互唱を、拍の流れを感じながら行う。児童は教師の「わっしょい」の速度をそのまままねて反復する。 ★教師は少し速く言ったり少し遅く言ったり、多少テンポを変動させる。教師の速度に合わせてもらったら、頷いたり褒めたりする。 ●太鼓叩き言葉を、教師の範唱について反復し、覚える。 ★拡大版楽譜1を指し示しながら、ゆっくりと明確に	①			①	ワークシートと発言 観察

	<p>発音する。太字と細字のメリハリをつけて範唱する。</p> <p>●覚えたリズムを口で言いながら、左右の手を正しく使って打つ。大きな動作で、はじめはゆっくり机などを打ち、完全に覚えられたらバチを持つ。</p> <p>★「天」は上から落とすように打つこと、次の「ス」は再び右手であることに注意を促す。遅い速度で練習させる。</p> <p>●2つのグループ：①「わっしょい」担当 ②太鼓リズム担当 に分かれ、教師の指揮（手拍子）により速度に合わせる。</p> <p>★①「わっしょい」グループは手拍子に合わせるように指示。「わっしょい」の反復が安定したところで、手拍子を打ちながら「天〇ステテコツクツク…」を②太鼓のグループに向かって明確に発音し、同調させる。</p>				②	観察
	◎拍（「わっしょい、わっしょい」で表現）を感じながら、前時に学んだ太鼓のリズムを重ねて打てるようになる。					
第2時	<p>●前時の復習。本時は太鼓リズムを心の中で唱えながら、手やバチで正確に打てるようにする。前時同様、「わっしょい、わっしょい」（拍）の担当グループをつくり、太鼓リズムと合わせる。</p> <p>★太鼓叩き言葉は、だんだん声に出さなくするよう指示。「わっしょい」担当のとき、太鼓のリズムを聴き取るように促す。役割は随時交代する。</p> <p>●グループ活動：グループ内で、 ①太鼓リズム担当 ②「わっしょい、わっしょい」（拍）を担当、の2つの役割に分かれる。</p> <p>●上り坂、下り坂、平地カードをグループ毎に組合せて並べる。上り坂は速度を遅く、下り坂はやや速く、平地は中くらいの速度で、互いの息を合わせて、①と②に分かれて合わせる練習をする。</p> <p>●グループごとに発表</p> <p>★発表の準備まで練習が進んだところで、教師は篠笛かりコーダー（または電子楽器）で〈四丁目〉を演奏する。各グループの速度変化に合わせて、笛の旋律をつける。</p>	②			①	観察 観察とワークシート

(3) 小学校第3学年指導案用ワークシート案

まつ しちょうめ
祭 りばやし 〈四丁目〉 にチャレンジ！

3年 組

- 1 どんな「おはやし」だったかな？ なにが聞こえましたか？
○をつけましょう。

() たいこの音 () 笛の音 () チンチンいう音 (カネの音)
() 人の声 (何かことばは聞き取れた？)

「おはやし」の音は、みんなの気持ちをどんなふうにするかな？ 音のない時とくらべて、
考えを書いてみましょう。

「おはやし」の音があると、(つづきを書きましょう)

- 2 先生と「わっしょい」を楽しみましょう！

先生の「わっしょい」は、ずっと同じじゃなかったですね。

先生の「わっしょい」は、と中で ()

が いろいろ かわりました。



※イラストは著作権フリーのところからとりました。(<http://www.irasutoya.com/>)

- 3 お友だちと2人組で、「わっしょい」を楽しみましょう！

お友だち
といきを合
わせた？

リーダー(こうたいしましょう) → もう1人 → リーダー → もう1人 →
リーダー → もう1人・・・のくり返しは、うまくできましたか？

リーダー役になるのは () むずかしかった () うまくできた
「もう1人」役 になるのは

() むずかしかった () うまくできた

2人で () 楽しくきょう力できた () うまく合わなかった

4 〈四丁目〉のたいこたたきことばをおぼえられたかな？

たいこたたきことばは

() カンペキ！ () だいたいおぼえられた

() もうひといき！

本当に、たたけるかな？

() カンペキ！

() なんとかなる！

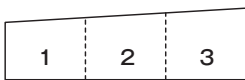
() 正しくたたくのは、ちょっとむずかしい。

() パチを持つと、ちょっとむずかしい。

5 はやさを工夫して_____グループのおはやしをつくろう！

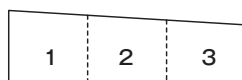
たとえばこんな感じにカードをおいて、気持ちをそろえてやってみよう！ 1まいのカードで、「天〇ステテコツクツクテテツクツ〇」を3回（ワッショイは12回）やりましょう。

上り坂カード



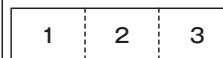
(ゆっくりのぼって)

下り坂カード



(下りはスピードアップ！)

平地カード



(平地は中くらいで)

6 〈四丁目〉にチャレンジして、おもしろかったことを書きましょう。

がんばったところ
でもいいですよ！

付録(2) 中学校第1学年対象授業案

(1) 事前準備

■楽器類

附け締太鼓1、長胴太鼓1、鉦1、があるとよい。ない場合は、代替品で構わない。練習の段階では、古タイヤや段ボール箱、ポリバケツが締太鼓の代替品として十分に機能する。バチだけは、人数分あると良いが、ない場合は硬めの空きペットボトル(500ml)が便利である。ペットボトルを使用する場合は、太鼓の代替品としてイスや机のへり部分を使っても傷がつかないで済む。

ソプラノリコーダー(生徒個人持ち)は、基本的に全員が1人1本もつ。

■楽譜類

①太鼓叩き言葉の楽譜 ⇒本稿の**楽譜1**

②〈四丁目〉の笛の簡単版 ⇒本稿の**楽譜5**

楽譜通りに **A** → **B** → **C** と演奏できるとよいが、転調する **B** を抜いて、**A** → **C** と演奏してもよい。生徒の実状や授業の手順を考慮に入れて決める。

■視聴覚資料

地元の祭囃子の映像があれば最もよい。その他、TVの映像を撮っておく。市販のDVDを活用する、など。

楽器類、演奏時の姿勢などの写真 ⇒「器楽」対応の検定教科書

■ワークシートなど

授業の展開をシミュレーションし、発問やグループ活動の手順に即して、生徒が考えたことを記入できるようなワークシートを作成する。

楽譜 5

四丁目 簡易版

ソプラノリコーダー用

作成 阪井恵

ソプラノリコーダー

A

8

4

7

10

B

14

17

21

C

25

29

33

36

(2) 授業案

中学校第1学年 音楽科題材指導計画

1 題材名

祭り囃子^{しちようめ}〈四丁目〉のグループ競演！－「玉入れ」や旋律のかざりを工夫しよう－

2 題材の目標

- (1) 祭り囃子に音楽的な仕組みがあることに興味をもち、〈四丁目〉を学ぶことに積極的に取り組む。
- (2) 〈四丁目〉の基本リズムと笛の旋律を習得したうえで、グループ内で役割を分担し、「玉入れ」や旋律の飾りなどを工夫して演奏する。
- (3) 〈四丁目〉の笛の旋律をリコーダーで吹いたり、笛の旋律を聴きながら〈四丁目〉の太鼓リズムを正確に打ったりする。

学習指導要領の指導事項 A (2) イ・ウ

〔共通事項〕ア 8拍ひとくさりのリズムの表し方を知る。西洋の曲とは異なる独特の旋律を味わう。両者が重なって生まれるテクスチャを聴き取る。



3 題材の評価規準

観点 時	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
第1時	①祭り囃子に音楽的な仕組みがあることに興味をもち、〈四丁目〉を学ぶことに積極的である。		①太鼓のリズムを正しく演奏する。 ②笛の旋律を正しく演奏する。

第 2 時		①〈四丁目〉の基本リズムと笛の旋律を習得したうえで、グループ内で役割を分担し、玉入れ」や旋律の飾りなどを工夫して演奏している。	
第 3 時	②体験を通して、祭囃子の醍醐味を感じようとしている。		③〈四丁目〉の笛の旋律をリコーダーで吹いたり、笛の旋律を聴きながら〈四丁目〉の太鼓リズムを正確に打ったりすることができる。

4 指導と評価の計画 (3 時間扱い)

時	◎ねらい ●学習内容と学習活動 ★教師の働きかけ	評価の観点				評価方法
		関	創	技	鑑	
第 1 時	◎〈四丁目〉の基本リズムを、左右の手を正しく使って太鼓で打てるようになる。〈四丁目〉の笛の旋律をリコーダーで吹けるようになる。両者を正しく合わせようとする。					
	●地元の神社のお祭りの映像などから、囃子の演奏風景のイメージを持ち、囃子の役割について考える。 ●本来使用する楽器を知り、それらの音の重なりが醸し出すテクスチャを味わう。 ●太鼓叩き言葉の楽譜（文字譜＝楽譜 1）を見て、覚える。左右の手を正しく使って、机や太鼓を打	①				ワークシート

	つ練習をする。			①	机間指導による観察
	★「天○ステテコツクツクテテツクツ」の太字部分は打ち、細字部分は打つより「刻む」感じてあることを伝え範奏する。				
	●笛の楽譜を見て正しいリズムと音名（ドレミ・・・）で読む。読めたら、リコーダーで音を取り、全曲が吹けるように練習をする。			②	机間指導による観察
	★拍の流れに乗りリレー式に音を読むなど、基礎練習にも祭り囃子の気分を保つようリードする。				
	●太鼓の基本リズム、笛（リコーダー）の旋律を合わせられるよう、グループで協力して練習する。				
	◎〈四丁目〉の基本リズム、基本旋律を習得した上で、グループで、2種類の太鼓による「玉入れ」、笛の旋律の飾りの部分などを工夫して演奏する。				
第 2 時	●「玉」「玉入れ」の用語と意味を学び、祭囃子の現場では、奏者どうしが玉入れや笛の即興的な変奏を楽しんでいることを知る。				
	★祭囃子独特の用語について、面白くガイドする。				
	●グループごとに、担当を分け、「玉入れ」や笛の旋律の飾りの部分を工夫する。鉦も交代で入れるようにする。				
	●ワークシートに役割分担を記入、笛の担当者は笛の譜に飾りマーク（  、  など）を工夫して記入しながらどのように合わせて演奏するかを考えて練習する。			①	グループ活動の観察とワークシート

第 3 時	◎〈四丁目〉の笛の旋律をリコーダーで吹いたり、笛の旋律を聴きながら〈四丁目〉の太鼓リズムを正確に打ったりする。				
	◎上手な本物の演奏を鑑賞しながら活動を振り返り、祭囃子の魅力について考える。				
	●グループごとに練習の成果を発表する。 ●まとめとして、五人囃子の映像を見て、「玉入れ」や笛の即興的な変奏、鉦の効果などを感じ取る。	②		③	演奏聴取 ワークシート

(3) 中学校第1学年指導案用ワークシート案

しちょうめ
祭り囃子〈四丁目〉のグループ競演！―「玉入れ」や旋律のかざりを工夫しよう―

※イラストは版權フリーのところからとりました。(http://www.irasutoya.com/)

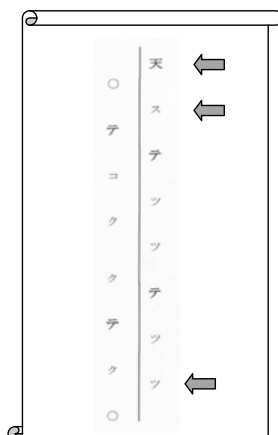
1 年 組 番

- 1 祭り囃子〈四丁目〉を見て、気付いたことや思ったことを書きましょう。

予想される生徒の反応

「指揮者がいないのに合っている」「リズムカルで楽しい感じ」「太鼓の音と笛の音が会話している感じ」「音楽の感じが変わるところがあった」「どうやって合わせているのだろう」「練習は大変じゃないかと思った」「自分もお囃子をしたことがあるけれど、曲が違う」「お祭りに行きたくなった」など

- 2 やってみよう！―太鼓のリズムを覚えて叩けるようにしましょう。



太鼓のリズムのポイントは…

- ① 右が右手、左が左手
- ② 上からジグザグに読むよ！
- ③ のところは、右手が3回続くよ！

ソプラノ・リコーダーで使う音は次の音なので、器楽の教科書で確認してね！

↓の音はよく使う音です。左手だけで吹けるね！

↓の音は練習記号の回だけに出てくるよ！



- 3 やってみよう！―笛のメロディーをソプラノ・リコーダーで吹けるようにしましょう。

楽譜5

四丁目 簡易版

ソプラノ・リコーダー用

作 友 阪井恵

ソプラノ・リコーダー

- 4 **やってみよう！**―笛のメロディーと太鼓のリズムを合わせて演奏しましょう。

うまく合った時はどんなことに工夫したかメモしておきましょう。

予想される生徒のメモ

「お互いよく聴いた」「ゆっくり練習した」「個人練習を取り入れてから合わせた」など

うまく合った時の気持ちもメモしておきましょう。



- 5 **チャレンジ！**―「玉入れ」(太鼓)と「かざり」(笛)で、グループのオリジナル〈四丁目〉をつくりあげましょう。

うまく「玉入れ」と「かざり」をして演奏出来た時の工夫と気持ちをメモしておきましょう。

工 夫：

気持ち：



- 6 **発表会！**―グループのオリジナル〈四丁目〉を楽しく演奏しましょう

グループの聴きどころを書きましょう

演奏を終えての感想を書きましょう



- 7 〈四丁目〉を大切に保存している方々の演奏を視聴して、気付いたことや思ったことを書きましょう。

